

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上
（分担研究報告書）

GIST ガイドライン改訂に関する研究

研究分担者 廣田 誠一 兵庫医科大学 病理学病理診断部門 教授

研究要旨

GIST (Gastrointestinal stromal tumor) は年間 10 万人に 1-1.5 人程度が発症する希少癌の一つである。GIST 診療ガイドラインは 2008 年に初版が発行され、これまでに第 3 版まで改訂が行われてきたが、これまでのガイドラインは Minds 診療ガイドライン作成の手引きに準拠した形式では作成されてこなかった。本研究は、Minds 診療ガイドライン作成の手引きに準拠した第 4 版の GIST 診療ガイドライン全面改訂にあたり、それを支援するものである。現在 GIST 診療ガイドラインは改定に向けて作業中であり、次年度（2019 年度）内の発行を目指している。

A . 研究目的

希少癌である GIST に関し、Minds 診療ガイドライン作成の手引きに準拠した形式のガイドラインとして全面改訂を行うことを支援する。

B . 研究方法

GIST 診療ガイドラインは、2014 年に第 3 版が発行されてから時間が経過したこと、また、大型胃 GIST に対する術前補助療法の有用性に関する新たな知見が報告されたこと等から、第 4 版として改訂が必要な状況となった。そのため、2017 年 10 月 4 日に改訂に向けた最初の作業として、改訂ワーキンググループの会議が東京国際フォーラムで開催され、改訂の方針や方法などが話し合われた。その中で、これまでのガイドラインが Minds 診療ガイドライン作成の手引きに準拠した形式では作成されてこなかった経緯を踏まえ、第 4 版は Minds 診療ガイドライン作成の手引きに準拠した形式で作成することが確認され、システムティックレビューチームを立ち上げることとなった。また、文献収集作業については一般社団法人日本医学図書館協会に委託して行うこととした。Minds 診療ガイドライン作成に則ったガイドラインの策定方法に関する情報を入手し、適切な対応ができるように、必要に応じて講師をお呼びすることとした。

C . 研究結果

GIST 診療ガイドラインの改訂は、まず、スコープに沿って、放射線・病理・外科・内科の各領域でアルゴリズムとクリニカルクエスションの策定が行われ、メール会議を含み数回の改訂ワーキンググループ会議を開催し、アルゴリズムとクリニカルクエスションが確定された。その後、一般社団法人日本医学図書館協会に委託して文献収集作業を行い、収集された多くの文献の中から、システムティックレビューチームによる論文の一次スクリーニングが行われた。2018 年 9 月 4 日には、フクラシア東京ステーションにおいて、各委員に Minds 診療ガイドライン作成の手引きに沿った今後のシステムティックレビューの方向性を理解してもらうために、日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部客員研究主幹の吉田雅博先生の講演を拝聴し、質疑の時間を設けた。現在、システムティックレビューチームによる文献の二次スクリーニングがほぼ終了し、構造化抄録の作成を行って、エビデンスの評価・統合の作業に入る状況にある。

D . 考察

当初の予定よりは改訂作業がやや遅れてはいるが、ようやくエビデンスの評価・統合の作業段階に入ることとなった。初期段階で各委員が、Minds 診

療ガイドライン作成の手引きに関する十分な知識を有していなかったことが遅れの一つの原因と思われた。日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 客員研究主幹の吉田雅博先生の講演を拝聴して理解の促進を図ったが、講演日に台風の直撃が重なり、参加者が少なくなるというアクシデントがあった。吉田雅博先生の講演内容についてはWEBで閲覧できるようにはしたものの、委員全員のシステムティックレビューに関する理解が十分に得られているのかは明らかでない面もある。エビデンスの評価・統合の作業に入るに当たり、Minds診療ガイドライン作成の手引きに沿った今後のシステムティックレビューの方法につき、再度、専門家からの講演をしていただいて、今後の作業がスムーズに進むようにしたい。

E. 結論

2019年度内での、Minds診療ガイドライン作成に則ったGIST 診療ガイドラインの改訂の完了を目指すために、委員各位、特にシステムティックレビューチームの各委員の作業内容の確認・理解が必要と考えられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Nishida T, Sakai Y, Takagi M, Ozaka M, Kitagawa Y, Kurokawa Y, Masuzawa T, Naito Y, Kagimura T,

Hirota S, and the members of the STAR ReGISTry Study Group. Adherence to the guidelines and the pathological diagnosis of high-risk gastrointestinal stromal tumors in the real world. *Gastric Cancer*. Epub ahead of print, 2019

2. Iemura Y, Katsushima H, Kataoka TR, **Hirota S**, Shimada T. An unusual case of duodenal gastrointestinal stromal tumour combined with the neuronal elements. *Pathol Int*. Epub ahead of print, 2019
3. Sugase T, Takahashi T, Serada S, Fujimoto M, Ohkawara T, Hiramatsu K, Nishida T, **Hirota S**, Saito Y, Tanaka K, Miyazaki Y, Makino T, Kurokawa Y, Yamasaki M, Nakajima K, Hanasaki K, Kishimoto T, Mori M, Doki Y, Naka T. SOCS1 gene therapy has antitumor effects in imatinib-resistant gastrointestinal stromal tumor cells through FAK/PI3 K signaling. *Gastric Cancer*. 21(6):968-976, 2018
4. Nishida T, Cho H, **Hirota S**, Masuzawa T, Chiguchi G, Tsujinaka T, Kinki GIST Study Group. Clinicopathological features and prognosis of primary GISTs with tumor rupture in the real world. *Ann Surg Oncol*. 25(7):1961-1969, 2018
5. Kitagawa H, Kaneko M, Kano M, Ibuki Y, Amatya VJ, Takeshima Y, **Hirota S**, Hirabayashi N. Coexistence of gastrointestinal stromal tumor and leiomyosarcoma of the stomach presenting as a collision tumor: a case report and review of literature. *Pathol Int*. 68 (5):313-317, 2018

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし